

3年間の地域おこし協力隊（農業支援員）を経て、今春から豊沢地区で新規就農しました。主力のイチゴを軸に、愛情を注いだホップも収穫を終えました。農園で育てたイチゴ「けんたろう」を原料にしたクラフトビールも10月末に完成。ビール工場を作りたいという夢に向かって歩みを進めています。秋晴れの農園で話を聞きました。



豊沢地区で新規就農

Vol.43 いしい じゅんじ 石井 淳司さん

夫婦二人三脚の厚真産ビール誕生

「お久しぶりです。運良く就農できました。あのホップを使ったビールが完成しましたよ」。あのホップとは、農業支援員に着任して間もなく、間借りしていた家の庭先で育てたホップです。人を介して苗を調達し、10本10品種を試験栽培しました。収穫するまで3年かかるといわれ、1株から50本以上に枝分かれする中から選定して幹を強くし、約120本の苗木を育てました。今年は6aを作付け、近い将来30aに拡大する予定です。「順調で、予定通りです」。自信に満ちていました。畑には、高さ6mのパイプが約50本並んでいます。通常は、収穫しやすいように4mほどの高さに留めますが、あえて高くしています。「まんべんなく太陽光を当てて、味と香りを豊にするためです」と石井さん。水や温度管理に細心の注意を払いながら、安定品質をめざします。収穫したホップは、冷凍して知人と起業した函館市内の麦酒醸造所に輸送します。100ℓタ

ンク1基を使って「上面発酵」し、330ml瓶で300本を製造しました。第1弾の『厚真ホッピーPAいちご』は町内限定販売です（税込み990円）。3棟のビニールハウスでは、妻恵子さんが主力のイチゴを栽培しています。父は漁師で、厚真に来て初めての農業です。「暑さで大変でしたけれど、皆さんに喜んでいただけました。さらに美味しいイチゴを作ります」と、夫を見つめて白い歯をこぼしました。

2人の子どもを学校に送迎しながら、夫婦で営む農園は「りたらファーム」。子どもたちの名前に由来します。何気なく片隅に置かれたスケートボードから、作業に汗を流す仲睦まじい夫婦の傍らで、活気あふれる子どもたちの姿を想像しました。「ハスカップやフランボワーズのビールも販売する予定です。フレッシュビールを提供するため、上厚真地区にビール工場を建てたいですね。私たち夫婦の目標です」

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・
みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**